目　　次

はじめに

第１章　ユネスコスクールとＥＳＤの「Q&A」
１　ユネスコスクールってなあに？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

２　ユネスコスクールって何をするの？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

３　どうしたらユネスコスクールになれるの？・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

４　ユネスコスクールになると、いいことあるの？・・・・・・・・・・・・・・ 6

５　持続可能な開発のための教育（ＥＳＤ）とは？・・・・・・・・・・・・・・ 7

６　ＥＳＤの視点に立った学習指導はどう考えればいいの？　・・・・・・・・ 8

７「持続可能な社会づくりの構成概念」「ＥＳＤの視点に立った学習指導で
重視する能力・態度」とは？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

８　ＥＳＤカレンダーは、どうやって作るの？・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

９　白方小の特色あるＥＳＤ活動は？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

１０　ＥＳＤを取り入れた授業ってどうなるの？・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

第２章　参考資料
資料１　ユネスコ憲章（前文）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
資料２　ユネスコスクール・ガイドライン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
資料３　新しい指導要領と教育振興計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
資料４　持続可能な社会づくりの構成概念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
資料５　ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度・・・・・・・・ 22
資料６　白方小学校ユネスコスクール申請書・申請の方法・・・・・・・・・・ 23
資料７　白方小学校ＥＳＤカレンダー（第１学年から第６学年）・・・・・・ 32
資料８　参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38

おわりに（研究に携わった教職員）

Ｑ１　ユネスコスクールってなあに？

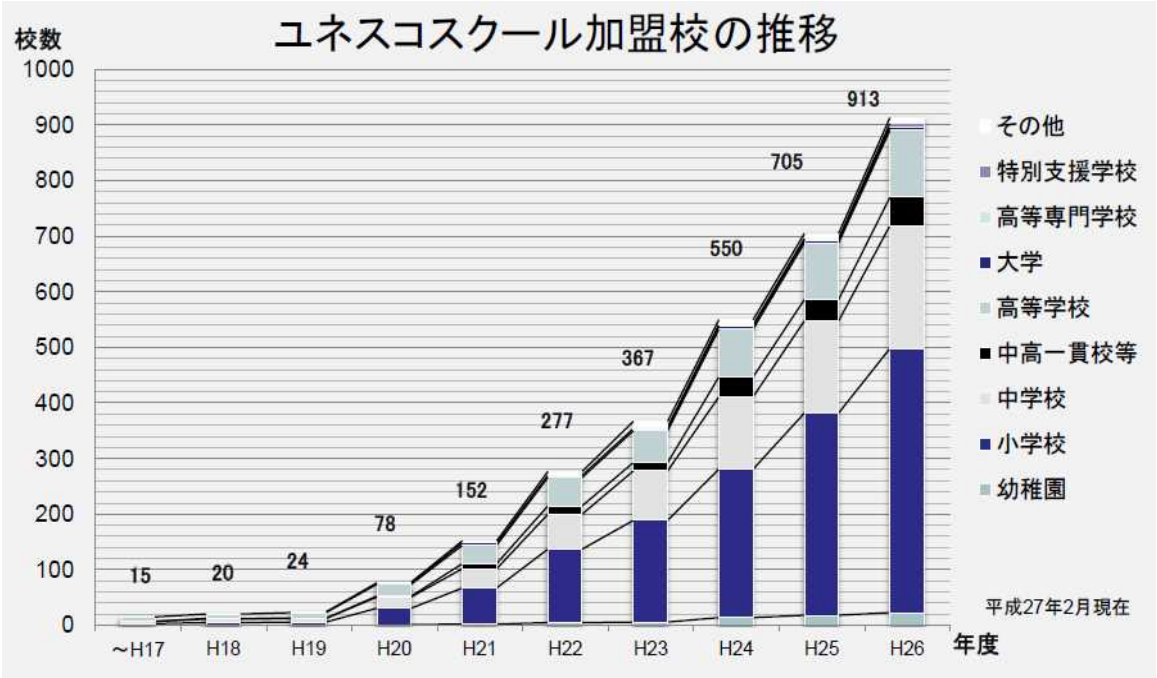
Ａ

ユネスコスクールは、UNESCO の事業の一つである ASPnet（UNESCO Associated Schools Project Network）という世界の学校ネットワークに加盟申請し、認定された学校です。

UNESCO Associated Schools Project は１９５３年に始まりました。

日本ユネスコ国内委員会では「ユネスコ協同学校」と和訳していましたが、親しみやすくするために、２００８年に「ユネスコスクール」と改称しました。

日本では９３９校、世界では１８１ヵ国に約１００００校が加盟しています。
（２０１５年６月現在）



福島県では、
２０１２年　安達高校
２０１２年　白方小学校
２０１４年　朝日小学校
２０１５年　四倉小学校　川南小学校
長沼中学校　長沼東小学校
の７校が加盟しています。

Ｑ２　ユネスコスクールって何をするの？

Ａ

ユネスコスクールは、UNESCO の理想を実現するため、平和についての共通テーマを学び、国内外のユネスコスクールとつながっていく国際的な学校です。

日本では、日本ユネスコ国内委員会が、次のように示しています。

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、昭和２８（１９５３）年に創設され、①地球規模の問題に対する国連システムの理解、②人権、民主主義の理解と促進、③異文化理解、④環境教育、といったテーマについて質の高い教育を実践する学校

ユネスコスクールは持続可能な社会を築く未来の人材づくりのために必要な価値観を育み、自発的で実践的な学習の在り方を重視しています。

平成２４年にユネスコスクールが持続発展教育（ＥＳＤ）の推進拠点として発展することを期待して、「ユネスコスクールガイドライン」が出されました。その中で、下記の点を念頭に置いて活動することが期待されています。

- 持続発展教育（ＥＳＤ）を通じて育てたい資質や能力を明確にし、自分で,あるいは協働して、問題を見出し解決を図っていく学習の過程を重視した教育課程を編成するよう努めること。
- 総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な指導計画を立てるなど、指導内容を適切に定め、さらに、指導方法の工夫改善に努めること
- 持続発展教育（ＥＳＤ）の推進拠点として、研究・実践に取り組み、その成果を積極的に発信することを通じて、持続発展教育（ＥＳＤ）の理念の普及に努めること。

・　質の高い教育って、どんな教育？
・　育てたい資質や能力って何？
・　教科横断的な指導計画ってどうやって作るの？

Ｑ３　どうしたらユネスコスクールになれるの？

Ａ

○　申請から加盟まで

※注2：学校＝小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校、特別支援学校、幼稚園を指します。
※注3：ユネスコ本部での手続きに半年以上かかることがあります。

Ｐ．２３に白方小学校の申請書（英語版）と「申請の方法」がありますので、ご覧ください。

Ｑ４　ユネスコスクールになると、いいことあるの？

Ａ

○　ユネスコから「認定書」、日本ユネスコ国内委員会から「プレート」が送られてきます。

＜認定証＞

＜プレート＞

○ ユネスコスクール公式ウェブサイト上での情報交換が可能になります。

↓

http://www.unesco-school.mext.go.jp/

↓

ＥＳＤに関連するイベントの最新情報や、各校の実践、役に立つ教材、ユネスコスクールをサポートする団体・機関等の情報を発信しています。また、ユネスコスクールには、ログインＩＤ・パスワードが発行され、ユネスコスクールが自ら情報発信したり、意見交換などを行ったりすることができます。

○ たくさんの情報に触れ教師の価値観や子どもたちの学びの質が変わります。また、外部の皆さんから様々な支援を受けられるチャンスが広がります。

今、白方小学校は、須賀川地方ユネスコ協会、日産財団、毎日新聞社や法政大学等から支援を受けています。

Ｑ５　持続可能な開発のための教育（ＥＳＤ）とは？

Ａ

ＥＳＤは、「Education　for　Sustainable　Development」の略で、日本ユネスコ国内委員会では、「持続可能な開発のための教育」と訳しています。

今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ＥＳＤとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think　globally，act　locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。

つまり、

ＥＳＤは、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

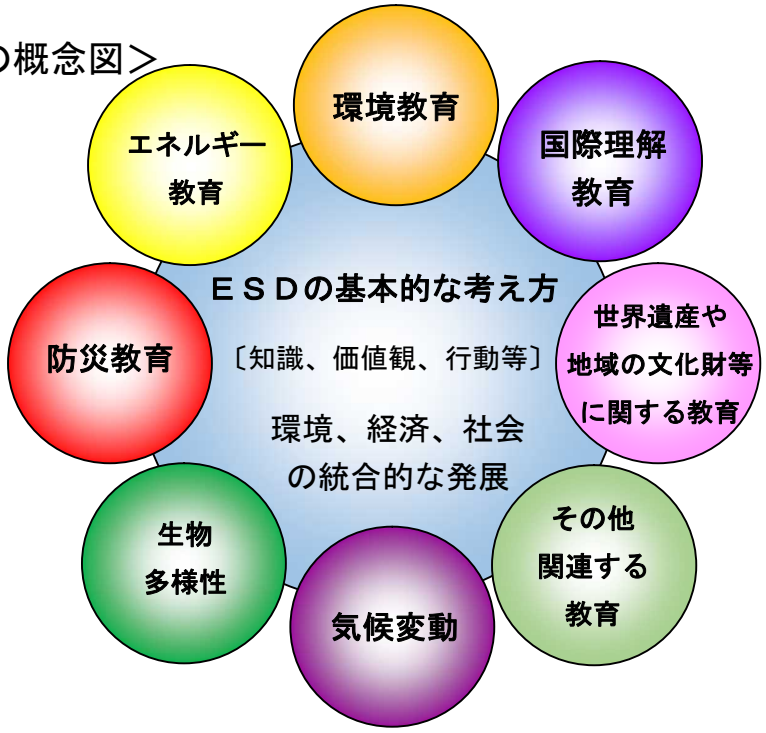
＊　教育振興基本計画においてもＥＳＤの重要性が明記され、学習指導要領にも持続可能な社会の構築の観点が盛り込まれています。

ＥＳＤの実施には、特に次の２つの観点が必要です。

○ 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと
○ 他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと

そのため、環境、平和や人権等のＥＳＤの対象となる課題の取組をベースにしつつ、環境、経済、社会、文化の各側面から学際的かつ総合的に取り組むことが重要とされています。

＜ＥＳＤの概念図＞



Ｑ６　ＥＳＤの視点に立った学習指導はどう考えればいいの？

Ａ

ＥＳＤの目標として、

「すべての人が質の高い教育の恩恵を享受し、また、持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育に取り込まれ、環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような行動の変革をもたらすこと」　（「国連持続可能な開発のための教育の１０年」関係省庁連絡会議、２００６）

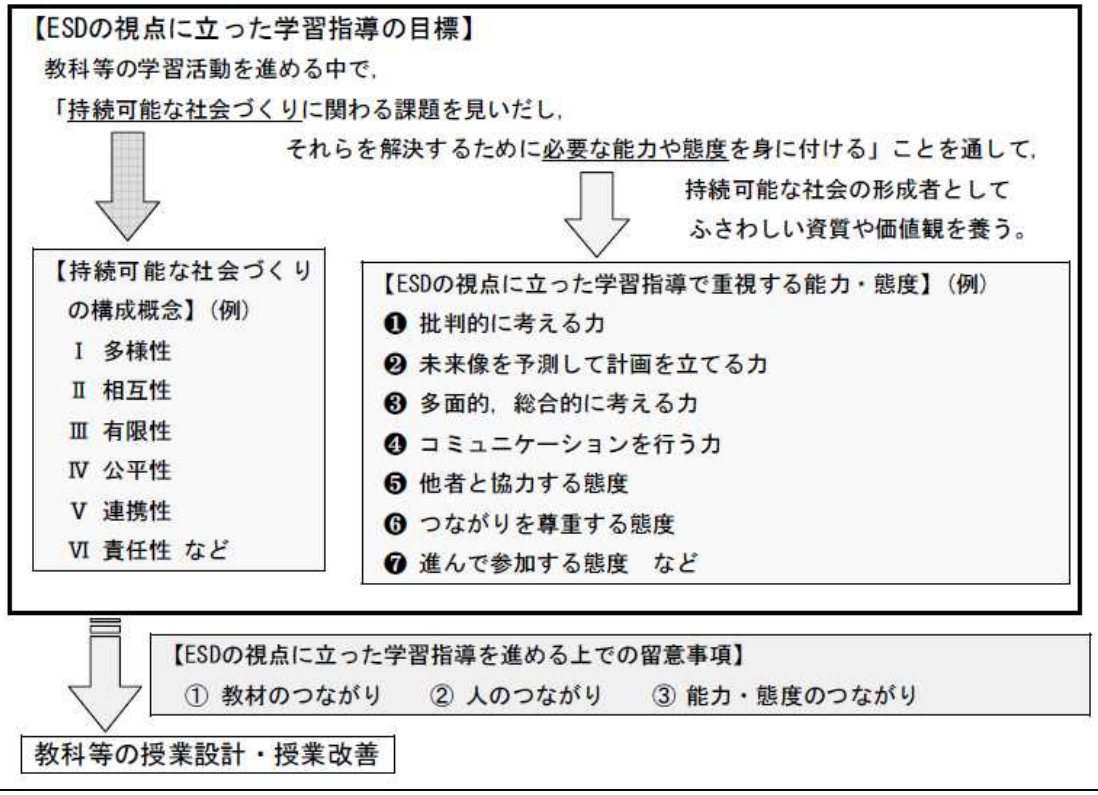
が挙げられています。

国立教育政策研究所『学校における持続可能な発展のための教育（ＥＳＤ）に関する研究（最終報告書）』では、各教科等の授業の中でＥＳＤの視点に立った学習を展開するため、目標を必要最小限に精選し、

「持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだし、それらを解決するために必要な能力・態度を身に付けること」

と設定しました。そして、各教科等の学習活動を進める中で、この目標の達成をねらいながら授業設計や授業改善を行うことが、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養うことに資するという考えに基づき、下記の「ＥＳＤの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」が提案されました。

＜ＥＳＤの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み＞



Ｑ７　「持続可能な社会づくりの構成概念」「ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」とは？

Ａ

持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだすためには、構成概念を明確にする必要があります。また、ＥＳＤの視点に立った学習指導を通して養う能力や態度も明確にする必要があります。

本校では、国立教育政策研究所の資料（Ｐ．２１、２２）の例をもとに、「構成概念」や「能力・態度」を下記のようにとらえました。

【「持続可能な社会づくりの構成概念】

Ⅰ　多様性（いろいろある）	Ⅱ　相互性（関わりあっている）
Ⅲ　有限性（限りがある）	Ⅳ　公平性（一人一人大切に）
Ⅴ　連携性（力を合わせて）	Ⅵ　責任性（責任を持って）

【ＥＳＤで重視する能力や態度】

①批判的に考える力
- 他の意見や考え、他からの情報をうのみにすることなく自分なりによく考え、理解し取り入れることができる。
- 得られた情報をもとに、積極的・建設的により良い解決策を考えることができる。

②未来像を予測して計画を立てる力
- 課題に対して、先の見通しや、目的・目標を持って計画を立てることができる。
- 相手や他人がどのように受け止めるかを考えながら、予測して計画を立てることができる。

③多面的・総合的に考える力
- いろいろな角度からものごとを見ることができ、他の事象等と関連付けて考えることができる。
- 見方や考え方の方向性を変えれば、不要物も資源になると考えることができる。

④コミュニケーションを行う力
- 自分の考えや思いを簡潔にまとめて他者に発信することができる。
- 他者の話を聞き、考えや意見を積極的に取り入れ自分の考えを再構築できる。

⑤他者と協力する態度
- グループの仲間と協力したり、励ましたりしながら活動することができる。
- 相手の立場や状況を考え、前向きな行動をとることができる。

⑥つながりを尊重する態度
- 目に見えない様々なものごととつながりがあることを理解し行動できる。
- 人は一人でなく、いろいろな人や物の恩恵を受けて生きていることが理解できる。

⑦進んで参加する態度
- 自分の言動に責任を持ち、主体的に活動に参加することができる。
- 自分の役割を理解し、進んで他者のために行動できる。

Ｑ８　ＥＳＤカレンダーは、どうやって作るの？

Ａ

「ＥＳＤカレンダー」は、ユネスコスクールの先進校である江東区立東雲小学校で開発され、「教科横断的な学習の進め方」を「見える化」した年間指導計画です。

本校では、江東区立八名川小学校のＥＳＤカレンダーを参考に作成することにより、ひと目で、いつの時期に、どのような視点を持って（自然・生命、エネルギー・地球温暖化等）、どのような学びを、どのような教科・領域と関連付けて取り組むのかが分かる年間指導計画にすることができました。

【ＥＳＤカレンダーの作り方】

現在使われている教育計画（年間指導計画）をもとに、教科・領域で進められているさまざまな教育内容を下記のように加工します。

① 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の年間指導計画から、「自然・生命」「エネルギー・地球温暖化」等の視点で、該当する単元名を洗い出します。

↓

② 教科・領域ごとで、実施時期の順に並べます。（およそ何月ごろか）

↓

③ それをどの領域かで色分けします。（「自然・生命」は緑、「エネルギー・地球温暖化」は黄色等）

↓

④ 関連付けて指導すると効果的と思われる内容どうしを線で結びます。

これで、ＥＳＤカレンダーができあがりますが、肝心なのは、この作業を通じて教科・領域間の関連について教師が意識を持つことです。そして、どのようにつなげていったら児童の実践的な態度までに結びつくのか、具体的な児童の姿をイメージし、指導の工夫に結び付け、実践を重ねながら修正していくことが必要です。

Ｐ．３２から、本校の全学年の「ＥＳＤカレンダー」を載せましたので、ご覧下さい。

Ｑ９　白方小の特色あるＥＳＤ活動は？

Ａ

「トンボには不思議がいっぱい」～ぼくたち　トンボ探検隊～

〈感動と気づき〉

４年生の子どもたちは、総合的な学習の時間に、「トンボ探検隊」になり、年間を通して「トンボの不思議」を発見する学習を展開しています。ビオトープの小川でオニヤンマの産卵のシーンを目の当たりにして感動するとともに、「この卵を無事に成長させるには？」という問題を、真剣に考え始めます。

【オニヤンマの産卵を見守る児童】

〈飼育と観察〉

トンボ研究家の安積さんの指導を受けながら、一人一頭のヤゴの飼育と観察を続けることにより、「オニヤンマの一生は？」「羽化の仕方は？」「オニヤンマの生活は？」「トンボの歴史は？」等の問題の追求が始まります。

【安積さんと飼育・観察】

〈調べ学習〉

グループごとの課題について、図書館やインターネット等での調べ学習をするとともに、専門的なことは安積さんへ質問をして課題解決に取り組みます。

〈新たな問題の発見と追求〉

課題解決に取り組む中で、絶滅しそうなトンボの危機に出会い、その原因やトンボを守るために自分たちのできそうなことを考え始めます。

〈まとめと発信〉

自分たちで学習してきた成果を、「白方フェスタ」（学習発表会）で全校生や保護者・地域の皆さんに発表するとともに、「トンボにはふしぎがいっぱい～ぼくたちトンボ探検隊～」を作成し配布しました。

【白方フェスタでの発表】

【トンボにはふしぎがいっぱい】

〈ブナ林探索〉

【ブナ林探索】

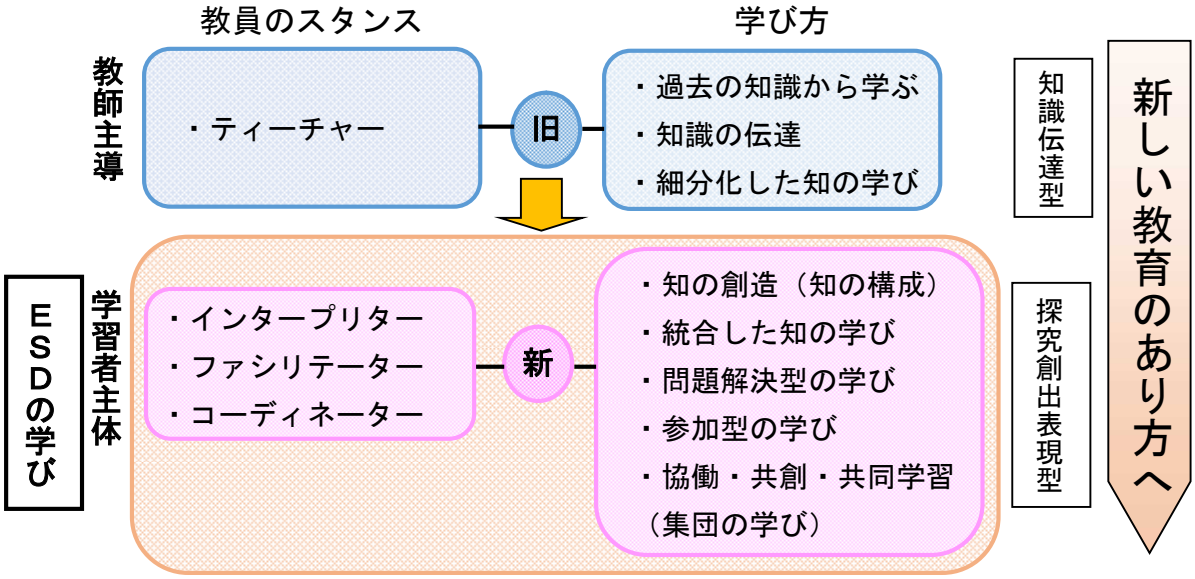
１・２年の生活科で始まる農村公園やビオトープでの環境学習は、５年生で森林学習へと発展します。岩瀬のブナ林から学ぶことで、さらに大きな水や生物の循環へと気づいていきます。これを、６年生のふるさと学習へとつなげ、保全活動の実践へと導きたいところですが、学校外の川も里山も森林も除染がされていないので、実践できないのが残念です。

これまでは、生活科や総合的な学習の時間を中心に、教科横断的な問題解決学習に取り組んできました。

Ｑ１０　ＥＳＤを取り入れた授業ってどうなるの？

Ａ

＜ＥＳＤの視点を取り入れた授業のデザイン＞



学　習　方　法

６つの構成概念と７つの能力・態度

学習過程＝問題解決の過程	指導方法の工夫
つかむ ＜問題の発見＞ ＜問題解決の見通し＞	本物との出会い ・豊かな自然体験 ・多様な人々との交流
調べる ＜見通しをもっての探究＞ ＜関係性の発見と知識の獲得＞	多様な情報の入手 ・繰り返し本物とかかわる体験 ・見通しをもった調査 ・必要性ある情報の選択
まとめる ＜問題解決法の策定＞ ＜思考の深化＞	情報の整理の工夫・コミュニケーション ・グループ討議・ポスターセッション ・ディベート、パネルディスカッション ・イメージマップの作成 ・ＩＣＴの活用
発信・行動する ＜価値観の醸成＞ ＜進んで参加する活動経験＞	表現や問題解決のための活動の場の設定 ・多様な人々との意見交流 ・環境保全活動等への参加 ・社会へ働きかける活動の実施 ・活動の振り返り